

令和8年度

シラバス(専門教科)

～農林技術科 2年～



鹿児島県立伊佐農林高等学校

農林技術科 2年 専門教科

共通

1 課題研究

2 総合実習

3 農業と情報

4 農業機械

5 森林科学

農業類型

1 野菜

2 畜産

3 食品製造

4 地域資源活用

林業類型

1 林産物利用

2 測量

<h1>課題研究</h1>	単 位	3 単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第2 学年

1 学習到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	1 生徒自ら課題を設定して計画を立て実施し、計画性、実践力及び問題解決の能力を養います。 2 自主的、継続的に学習することで探求的、創造的な態度と能力を身につけます。 3 課題解決により、成就感と自信を持つことで、自己実現を図る能力と態度を身につけます。
使用教科書・副教材等	各専攻によって異なる。

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	1 課題発見とテーマの決定 2 計画（計画の立案） 3 実施（学習活動）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究の意味を理解する。 ・自分の専攻班の中で課題を見出し、研究テーマを決定する。 ・テーマに従って課題解決の計画を作る。 ・計画に従って学習活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は各専攻によって異なる。
2 学 期	1 実施（学習活動） 2 学習のまとめ 3 発表原稿の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に引き続き活動を行う。 ・学習結果に従い結果をまとめる。 ・データの分析や考察の検討を通して、論理的思考を身につける。 ・発表に備え、原稿のまとめやプレゼンテーションの作成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は各専攻によって異なる。
3 学 期	1 研究発表 2 学習結果のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した原稿とプレゼンテーションを用いて聴衆に分かりやすく発表する。 ・学習成果を冊子にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は各専攻によって異なる。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けての実習や実験内容の基本的な知識を理解し、そのための技術が身につけたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言 ・レポートの記入 ・行動観察 ・プレゼンテーションの作成 ・発表 ・研究冊子のまとめ ・服装・忘れ物 ・欠席・遅刻 ・大会・競技会・コンテスト
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を多面的にとらえ考察を行っているか。 ・課題を科学的にとらえ合理的に解決する実践的な態度を身につけているか。 ・結果の考察などが正確に表現できるか。 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定や計画立案を積極的で、解決に向けて協働的に取り組む態度が身につけているか。 ・学習に対する服装や姿勢が、良好で意欲に学習しているか。 	

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

総合実習 (部門別)	単 位	3単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第2学年

1 学習到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	(1)体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得します。 (2)専攻においての内容理解を深め、基礎的専門分野の知識や実技など実践的な能力と態度を育てます。
使用教科書・副教材等	実験実習ノート

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	○専攻別での専門学習 ・肉用牛班 ・養豚班 ・園芸班 ・林業班 ・食品加工班	・専攻における基本的な作業管理・技術を学び、専門的知識・技術を学びます。 ・農業技術検定の初級・中級の合格を目指します。 ・農業鑑定競技や意見発表を通して、農業に関する知識を深めます。	
2 学 期	○専攻別での専門学習 ・肉用牛班 ・養豚班 ・園芸班 ・林業班 ・食品加工班	・専攻における基本的な作業管理・技術を学び、専門的知識・技術を学びます。 ・農業技術検定の初級・中級の合格を目指します。 ・産業現場での総合的な実習を通して、農業生産工程管理やマーケティング、労働管理の手法等を学びます。	
3 学 期	○専攻別での専門学習 ・肉用牛班 ・養豚班 ・園芸班 ・林業班 ・食品加工班	・専攻における基本的な作業管理・技術を学び、専門的知識・技術を学びます。 ・農業技術検定の初級・上級の合格を目指します。	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	・各専攻に関する基礎的な知識と技術を身につけ、特性と社会環境の関係や育成の過程等を理解しているか。	【学期全体を通して】 ・毎回の出席点 ・毎回の実習態度 ・毎回のレポート提出 【一学期】 ・意見発表大会 原稿提出、取り組み状況 ・農業鑑定競技会 取り組み状況
思考・判断・表現	・管理の記録を分析するなど課題を多面的に考察しているか。 ・見出した課題を科学的にとらえて合理的に解決する実践的な能力を身につけているか。	
主体的に学習に取り組む態度	・各専攻学習に興味・関心を高めているか。 ・各専攻に関するプロジェクトを主体的に行うなど課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的にとらえて合理的に解決しようとする実践的な態度を身につけているか。	

※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

農業 【 農業と情報 】	単 位	2単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第2学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	<p>1 農業に関する情報を体系的・系統的に理解し、関連する技術を習得する。</p> <p>2 農業に関する情報の調査・分析・活用ができるように、課題について主体的・協働的に取り組む。</p>
使用教科書・副教材等	<p>教科書：実教出版「農業と情報」</p> <p>副教材：「全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集2級」(実教出版)</p> <p>「全商情報処理検定模擬試験問題集3級」(実教出版)</p>

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学習内容	評価規準	備考
1 学期	<p>4 スマート農業への展望</p> <p>1 スマート農業のめざす将来</p> <p>2 システム開発と設計</p> <p>3 プログラムの設計</p> <p>4 計測と制御</p> <p>5 リモートセンシングとGIS</p> <p>6 人工知能</p>	<ul style="list-style-type: none"> データの重要性や農業情報システムについて理解します。 システム開発・設計の流れを理解します。 プログラムの設計の流れを理解します。 計測と制御のメカニズムを理解します。 リモートセンシングとGISの概要について理解します。 人工知能の概要やロボット農機を理解します。 	
2 学期	<p>5 農業情報の分析と活用</p> <p>1 農業情報の収集と分析</p> <p>2 農業生産や経営情報の分析と活用</p> <p>3 環境に関する情報の分析活用</p> <p>4 食品や地域資源に関する情報の分析と活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> 農業情報の種類と内容について理解します。 農業生産や農業経営、出荷、販売に関する情報を活用します。 環境情報の種類と情報内容および活用について理解します。 食品の安全性や地域資源を守るための情報活用技術について理解します。 	
3 学期	<p>6 農業学習と情報活用</p> <p>1 農業学習とプロジェクト学習</p> <p>2 プロジェクト発表と情報発信</p> <p>3 データの視覚化と分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> 農業学習の特徴とプロジェクトの四段階について理解します。 学校紹介プレゼンを作成します。 	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	農業情報処理の基本的な知識と基礎的な技術を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の取組 毎時間のファイル提出 定期考査
思考・判断・表現	基本的な操作や技術を理解して、それらを状況に応じて創造的に考えて、利用・表現できる。	
主体的に学習に取り組む態度	ワープロや表計算、プレゼンテーションソフトの学んだ技術を総合的に活用するとともに、資格取得などに主体的に取り組んでいる。	
【観点別学習状況の評価】		
「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

農業【 農業機械 】	単 位	2単 位
	学科・学年・学級	農林技術科 第2学年

1 学習到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	1 農業機械の構造と機能についての理解と関連する技術を身につける。 2 農業機械に関する課題を見だし、合理的解決する力を養う。 3 農業機械の特性を理解し、効率的な利用を自ら学び、主体的・協働的に取り組む。
使用教科書・副教材等	教科書：農業機械（実教出版） 副教材：チャレンジライセンス三種危険物取扱者テキスト(実教出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	第1章 農業機械の役割 1 農業機械化の意義 2 農業機械の利用とその現状 第2章 原動機 1 内燃機関 2 電動機	<ul style="list-style-type: none"> ・農業機械の特徴や種類、利用形態を理解します。 ・農業経営における機械の役割を理解します。 ・農業機械の発達の過程を調べます。 ・内燃機械の種類と特徴、原理と構造、正しい取り扱いを身に付けます。 ・電動機の種類と特徴、回転原理、構造を理解する。 ・電動機の安全な運転と取り扱いを身に付けます 	
2 学 期	第3章トラクタ 1 乗用トラクタ 2 歩行用トラクタ 第4章作業機 1 耕うん・整地用機械 2 育成・管理用機械	<ul style="list-style-type: none"> ・乗用トラクタの種類と特徴を理解する。 ・乗用トラクタの安全な運転操作の仕方を身に付けます。 ・乗用トラクタの構造を理解し、整備の仕方を身に付けます。 ・歩行用トラクタの正しく安全な操作方法を身に付けます。 ・歩行用トラクタの構造を理解し、整備の仕方を身に付けます。 ・耕うん・整地用機械の種類と特徴、利用法を理解します。 ・育成・管理機械の種類と特徴、利用法を理解します。 ・イネの収穫・調整に使われる機械や施設について理解します。 ・イネの調整に使われる機械や施設について理解します。 	
3 学 期	4 畑作用収穫・調整機械 5 飼料作用収穫・調整機械 6 運搬用機械 7 環境調整用機械	<ul style="list-style-type: none"> ・畑作物の収穫に使われている機械について理解します。 ・収穫物の調整に使われる機械や施設について理解します。 ・飼料作物の利用方法と、使われる機械の関係について理解します。 ・飼料作物の収穫・調整に使われる機械の種類と特徴について理解します。 ・運搬用機械の種類と特徴、安全な利用法を理解します。 ・温湿度調節機械の種類と特徴を理解します。 ・自動制御と環境制御機器の概要を理解します。 	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	農業機械について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、発言 ・レポート記入 ・行動観察、実技
思考・判断・表現	農業機械に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。	
主体的に学習に取り組む態度	農業機械について特性を理解し、効率的な利用につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
【観点別学習状況の評価】 「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

農業【森林科学】	単 位	2 単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第2 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 森林の仕組みと機能を知り、地域ごとの自然条件に適した管理の技術を身に付けます。 2 植物の生理、動物の行動、土の構造、水と大気の循環について基礎を学び生態系や森林保全、継続的な管理などを身に付けます。
使用教科書・副教材等	森林科学（実教出版）、林業白書

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学習内容	評価規準	備考
1 学期	第1章 森林の役割 第1節 森林の多面的機能 第2節 森林管理の意義 第2章 森林の生態 第1節 森林の生態と分布 第2節 林木の生育と環境	・森林がどのような働きをして自分たちの役に立っているか理解します ・森林管理の意義やこれまで培ってきた育林技術を学び課題と新しい方向を理解します。 ・生態系の構造と機能を理解します。 ・気候による森林の樹木の違いや特長及び植物群落の遷移について理解します。 ・樹木の植物的な基礎と森林を構成するおもな樹種の形態的特徴や性質を学び、林木の生育に関わる環境因子について理解します。	・校内の樹木について調べます。 ・日本と世界の森林について比較します。 ・さし木・接ぎ木の実習をします。 ・山林実習を行います。
2 学期	第3章 森林の育成 第1節 育苗と造林 第2節 森林の保育と保護 第4章 山地の保全 第1節 治山治水 第2節 林道と作業道 第5章 木材の生産 第1節 林木の伐採 第2節 造材と集材 第3節 木材の運搬	・森林造成に関わる経費間伐・里山の荒廃など適切な森林の育成・管理技術について理解します。 ・森林造成のもととなる苗木の生産ならびに造林の基礎について理解します。 ・森林のもつ国土保全機能や自然環境保全機能などを生かした災害防止や水資源のかん養などを実現する治山治水について理解します。 ・森林から得られる最大の資源として木材の伐採・造材・集材・運搬について理解します。	・苗木の病害虫・森林の病虫害・動物被害について調べます。 ・林業関係の資格取得について調べます。
3 学期	第6章 人間社会と森林 第1節 森林利用の変遷 第2節 流域社会と人の暮らし	・森林が時代と共に変遷してきた過程や流域社会と人の暮らしから、わが国の森林や林業が直面している課題について考える。	・実習等の結果をレポートにまとめ提出します。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」（職業に関する各教科については「知識・技術」）、「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能 知識・技術	森林科学について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、発言 ・レポート記入 ・行動観察、実技 ・出席状況
思考・判断・表現	森林科学に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。	
主体的に学習に取り組む態度	森林を科学的に捉えるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	
【観点別学習状況の評価】		
「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足する」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

<h1>野菜</h1>	単 位	2 単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第2 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 野菜の植物的特性や食生活における価値、農業の中での重要性などを理解する。 2 栽培や観察など体験的な学習を通して栽培管理の基本的方法を理解し、栽培できる能力を養う。 3 調査や実験を通して科学的に考える力や問題を解決する能力を高める。 4 生産物の商品化や流通について基礎的事項を理解し、経営に応用する資質を養う。
使用教科書・副教材等	野菜 (実教出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学習内容	評価規準	備考
1 学 期	第1章 野菜生産の役割と動向 1 野菜の種類と利用 2 野菜の消費 3 野菜の生産と供給 4 野菜の安全性	<ul style="list-style-type: none"> 野菜を分類し、多くの種類を体系的に理解する。 野菜の栄養価などの重要性を理解する。 野菜の消費と生産の現状と動向や消費者ニーズが多様化するなかで、品種改良や作型・栽培技術の発展・改良、輸入野菜の増加などについても理解する。 安全な野菜生産のために多くの取り組みが必要であり、それが重要であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4章以下で扱う各野菜の栽培管や観察、実験などを展開する。
2 学 期	第2章 野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 1 野菜の生育と生理 2 野菜の栽培環境と生育調節 3 人工環境における栽培技術	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の種まきから収穫までの生育過程と生理的特徴を理解し、栽培と環境について理解する。 施設栽培などの人工環境における栽培技術の基礎について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4章以下で扱う各野菜の栽培管理や観察、実験などを展開する。
3 学 期	第3章 野菜の育苗 1 育苗の目的と方法 2 育苗技術の実際と応用	<ul style="list-style-type: none"> 育苗の目的と良い苗の特徴を理解し、育苗計画が立てられるようになる。 用土の準備から種まきやつぎ木、温度管理などが実際にできるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4章以下で扱う各野菜の栽培管理や観察、実験などを展開する。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> 野菜に関する基礎的な知識を習得し、それぞれの農業生産物の特性とそれを取り巻く栽培・飼育環境との関係を理解しているか。 野菜に関する基礎的な技術を習得させ、プロジェクト学習の中で適切に生かすことができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 発言 ワークシートの記入 レポートの記入 行動観察 実技 服装・忘れ物 欠席・遅刻 大会・競技会・コンテスト
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 野菜について科学的な思考と問題解決能力を身に付け、日々の観察記録簿や資料等を使って調査したことの中から分析し、考察する。 栽培上の課題を合理的に判断、日々の観察記録簿の中でのスケッチを利用した観察や考察が正しく表現することができるか。 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 野菜についての興味・関心を持ち、プロジェクト学習に主体的に取り組む、課題解決に向けて積極的・科学的に取り組もうとする実践的な態度を身につけているか。 	
【観点別学習状況の評価】 「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

畜 産	単 位	2 単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第2 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1. 家畜の飼育と経営に必要な知識と技術を習得させる。 2. 家畜の特性や飼育環境を理解させる。 3. 合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	畜産 (実教出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	第1章 日本の畜産の特徴と役割 1 日本の畜産の特徴 2 日本の畜産物の需要動向 3 畜産の役割と課題 4 科学の発展と畜産への活用	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産業についてその概要を理解する。 ・日本の畜産について、世界と比較しその特徴を理解する。 ・日本の畜産物の需給の動向や特徴を世界のようす比較し、理解する。 ・畜産物がタンパク質の供給源として重要であることを理解する。 ・科学の発展がどのように畜産に活用されているかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4章以下で扱う各家畜の飼育管理や観察、実験などを展開する。
2 学 期	第2章 動物の生理・生態と飼育環境 1 動物の生理・生態 2 飼育環境の調節 3 家畜排せつ物の処理と利用	<ul style="list-style-type: none"> ・農用家畜について理解する。 ・家畜の飼育と環境を結びつけて理解する。 ・家畜にとっての快適な環境について理解する。 ・家畜排せつ物の処理法について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4章以下で扱う各家畜の飼育管理や観察、実験などを展開する。
3 学 期	第3章 家畜と飼料 1 家畜の栄養と栄養素 2 飼料の特性と給与	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜と栄養の概念を通して、食料生産における畜産と飼料の位置づけ、意義を考えられるようになる。 ・家畜飼料に求められる要件を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4章以下で扱う各家畜の飼育管理や観察、実験などを展開する。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜に関する基礎的な知識を習得し、それぞれの農業生産物の特性とそれを取り巻く栽培・飼育環境との関係を理解しているか。 ・家畜に関する基礎的な技術を習得させ、プロジェクト学習の中で適切に生かすことができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・発言 ・ワークシートの記入 ・レポートの記入 ・行動観察 ・実技 ・服装・忘れ物 ・欠席・遅刻 ・大会・競技会・コンテスト
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜について科学的な思考と問題解決能力を身に付け、日々の観察記録簿や資料等を使って調査したことの中から分析し、考察する。 ・飼育上の課題を合理的に判断、日々の観察記録簿の中でのスケッチを利用した観察や考察が正しく表現することができるか。 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜についての興味・関心を持ち、プロジェクト学習に主体的に取り組む、課題解決に向けて積極的活科学的に取り組もうとする実践的な態度を身につけているか。 	
<p>【観点別学習状況の評価】</p> <p style="text-align: center;">「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの</p>		

<h1>食品製造</h1>	単 位	2 単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第2 学年

1 学習到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	食品製造に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と加工の原理を理解するとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる
使用教科書・副教材等	実教出版「食品製造」

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	本校の食品製造 食品製造の実践と企業経営 品質管理・作業体系 食品製造の意義と動向 食品製造の基礎 果実類の加工	本校の加工品についての製造方法や施設設備などを知り、今後の学習の基盤をつくる 加工品製造にあたり、品質維持を図るための工程と生産環境の管理、作業体系について理解する HACCPについて理解する 食生活における食品産業の役割及び食品製造に関する技術の進捗を理解する 食品の分類や食品の科学性について総合的な学習をし食品製造の内容を理解します イチゴ・甘夏を原料に果実類の加工特性や加工品の種類、製造方法を理解する	加工室の使用のきまりや機械の説明や実習の内容について説明 食品製造実習を行う
2 学 期	食品の変質と貯蔵 肉類の加工 発酵食品の製造	食品の変質とそれに伴う価値の変化及びその防止のための貯蔵法を理解する 豚肉を中心に肉類の加工特性、加工品の種類、製造方法を理解します。 発酵食品の種類と特徴、微生物や酵素の働きを利用した製造の原理、製造技術の変遷について理解し、基本的な知識と技術を習得する	食品製造実習を行う
3 学 期	穀類の加工	米と小麦について、その種類や加工特性を理解します。	食品製造実習を行う

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けているか。	・授業への参加のしかたや態度 ・課題やレポートの内容や提出状況 ・定期考査 ・小テスト
思考・判断・表現	食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養っているか	
主体的に学習に取り組む態度	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的な態度を養っているか。	
【観点別学習状況の評価】 「A:十分満足できる」・「B:おおむね満足できる」・「C:努力を要する」状況と判断されるもの		

農業【 林産物利用 】	単 位	2単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第2学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	<p>1 木材の構造、性質や用途を理解し、木材を製材、加工、利用する知識と技術を習得する。</p> <p>2 製材に関すること、木材工作に関すること、木材の乾燥や保存に関することについて課題を見だし、合理的・創造的に解決する力を養う。</p> <p>3 林産物の多様な利用について自ら学び、主体的協働的に取り組む姿勢を身につける。</p>
使用教科書・副教材等	林産物利用（実教出版）、林業白書

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	<p>第1章 林産物利用とプロジェクト学習</p> <p>第1節 プロジェクト学習の意義</p> <p>第2節 プロジェクト学習の進め方</p> <p>第2章 循環資源としての木材</p> <p>第1節 木材の性質</p> <p>第2節 木材の用途</p> <p>第3節 循環資源と環境</p>	<p>・林産物利用のプロジェクト学習の進め方や実践に向けて取り組みます。</p> <p>・木材の断面の構造や特性などを理解します。</p> <p>・木材の肉眼的・顕微鏡的構造や様々な性質・組織について理解します。</p> <p>・用途やその利用について理解します。</p> <p>・木材の特性と用途について理解し、木材が自分たちの暮らしにどのように利用されているか理解します。</p>	
2 学 期	<p>第3章 林産業の現状と動向</p> <p>第1節 林産業の現状と課題</p> <p>第2節 外国の林産業</p> <p>第4章 製材・加工と木工</p> <p>第1節 製材・加工</p> <p>第2節 木工</p>	<p>・我が国の林産業について、製材業やパルプ、バイオマスなど産業としての現状を取り扱います。</p> <p>・外国の林産業について、取り扱います。</p> <p>・製材（行程や機械）、木取り、主な樹種の乾燥、用途に応じた乾燥について理解します。</p> <p>・木材の強度や弾性、比重、含有水分や傷などとの関係について考察します。</p> <p>・用途別の木材利用や木材の特性、木材特性と用途の関係について考察します。</p>	
3 学 期	<p>第3節 安全・衛生</p>	<p>・木材の種類や状態に応じた切削加工、面削り作業を理解します。</p> <p>・木工工作法および塗装、刃物と切削との関係、事故防止について考察します。</p>	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	・林産物の利用について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	<p>・定期考査、発言</p> <p>・授業プリント</p> <p>・行動観察、実技</p>
思考・判断・表現	・林産物の理由に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決している。	<p>・定期考査、発言</p> <p>・授業プリント</p> <p>・行動観察、実技</p>
主体的に学習に取り組む態度	・林産物が多様な利用につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	<p>・出席状況、授業プリント</p> <p>・定期考査、発言</p> <p>・行動観察、実技</p>

【観点別学習状況の評価】

「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの

農業【 測 量 】	単 位	2単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第2学年

1 学習到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	1 測量に必要な知識と技術を習得します。 2 実際に各種の事業に応用する能力と態度を身に付けます。
使用教科書・副教材等	農業測量 (実教出版)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	測量のわけ方・すすめかた 1 平板測量 (1) 平板測量の器具 据え付け方法 (2) 平板測量の方法 応用 (3) 平板測量の誤差 (4) 面積の算定 (5) 平板測量の製図	<ul style="list-style-type: none"> ・測量の目的によって、いろいろな種類があることを知る。 ・測量の作業手順を学び、誤差が伴うことを理解します。 ・測量で使用される器具の名称 取り扱いすえつけを理解する。 ・距離測定、道線法による誤差の調整ができるようにします。 ・アリダードを使用し、傾斜の測定、高低差及び距離の算出できるようにします。 ・平板測量の各種誤差とその原因を理解します。 ・面積の算定 測量図の製図 	
2 学 期	2 水準測量 (1) 水準測量の器械・器具 (2) 水準測量の方法 (3) 野帳の記入法 (4) 交互・間接水準測量 (5) 水準測量の誤差	<ul style="list-style-type: none"> ・レベルの種類やしくみを理解します。 ・レベルの基本操作が出来るようになります。 ・レベルを用いた測量の基本を理解します。 ・2つの野帳 (昇降式、器高式) を理解し、記入や計算が出来るようになります。 ・交互・間接測量について理解し、測量出来るようになります。 ・レベルを用いた測量の精度や誤差に及び、誤差の修正方法について理解します。 	
3 学 期	3 角測量 (1) 角の種類と測角機械の構造 (2) セオドライトの検査 (3) 角の測定 (4) 角測量の誤差	<ul style="list-style-type: none"> ・セオドライトの種類や仕組みを理解します。 ・セオドライトの各種検査、調整が出来るようになります。 ・セオドライトを用いた角測量を理解し、実際の測量が出来るようになります。 ・角測量の誤差を理解しその誤差を消去出来るようになります。 	

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	<ul style="list-style-type: none"> ・測量の目的に必要な知識を理解し、基礎的な知識を身につけ、測量の方法、誤差の調整等を理解しているか。 ・測量器具を正確に取り扱い、測量方法及び、誤差の調整における技術や能力を適切に身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への参加の態度 ・定期考査、レポート ・測量器具の取り扱い、方法、誤差の調整、面積の計算方法
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・測量の目的に応じて課題解決を目指した思考、測量結果の整理と誤差の原因について考察しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、レポート ・誤差の調整、製図
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・測量の学習に興味・関心を高め、測量に関する課題に主体的、意欲的に取り組む実践的な態度を身につけているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習への参加の態度 ・出席状況 ・継続的な記録の有無
【観点別学習状況の評価】 「A：十分満足できる」・「B：おおむね満足できる」・「C：努力を要する」状況と判断されるもの		

<h1>地域資源活用</h1>	単 位	2 単位
	学科・学年・学級	農林技術科 第2 学年

1 学習到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	1. 地域資源の活用について関連する技術を身に付ける。 2. 実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、地域資源の活用に関する課題を発見し解決する力を養う。 3. 地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書・副教材等	教科書 実教出版「地域資源活用」

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

	学 習 内 容	評 価 規 準	備 考
1 学 期	地域資源の発見・保全とその活用 伊佐市や本校の地域資源を知る	日本や伊佐市の地域資源を発見する 伊佐農林高校の資源について知り、保全に繋げる 「更生之素」の歴史 「更生之素」の製造	食品製造実習 豚味噌・みそ 地元の特産品の市場調査 地域調査
2 学 期	地域資源活用の意義と役割 地域資源の価値と活用 商品開発への活用	地域社会、コミュニティの変化と現状・課題について理解する 地域社会における課題解決について考える 地域資源活用を実践し、課題について考え、まとめる 商品開発についての概要と実施の手順について理解する	食品製造実習 実践発表会
3 学 期	地域と連携した活動	地域資源のマーケティングとブランドづくりについての知識・技術を習得し、魅力を伝える実践を行う 起業や六次産業化について理解する	食品製造実習

ちいち(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	地域資源活用に関する基礎的な知識や技能を身につけているか。また、実技を通して実践的な力をつけたか。	・授業への参加のしかたや態度 ・課題やレポートの内容や提出状況 ・定期考査
思考・判断・表現	農林業・農山村に関する課題を多面的に考察しているか。また、課題を科学的にとらえて合理的に解決し、表現できる実践的な態度を身につけているか。	
主体的に学習に取り組む態度	地域資源活用について興味・関心を高めているか。また、課題の探求に意欲的に取り組み、その課題を科学的にとらえて合理的に解決しようとする実践的な態度を身につけているか。	
【観点別学習状況の評価】 「A:十分満足できる」・「B:おおむね満足できる」・「C:努力を要する」状況と判断されるもの		